



禁色の紫陽花

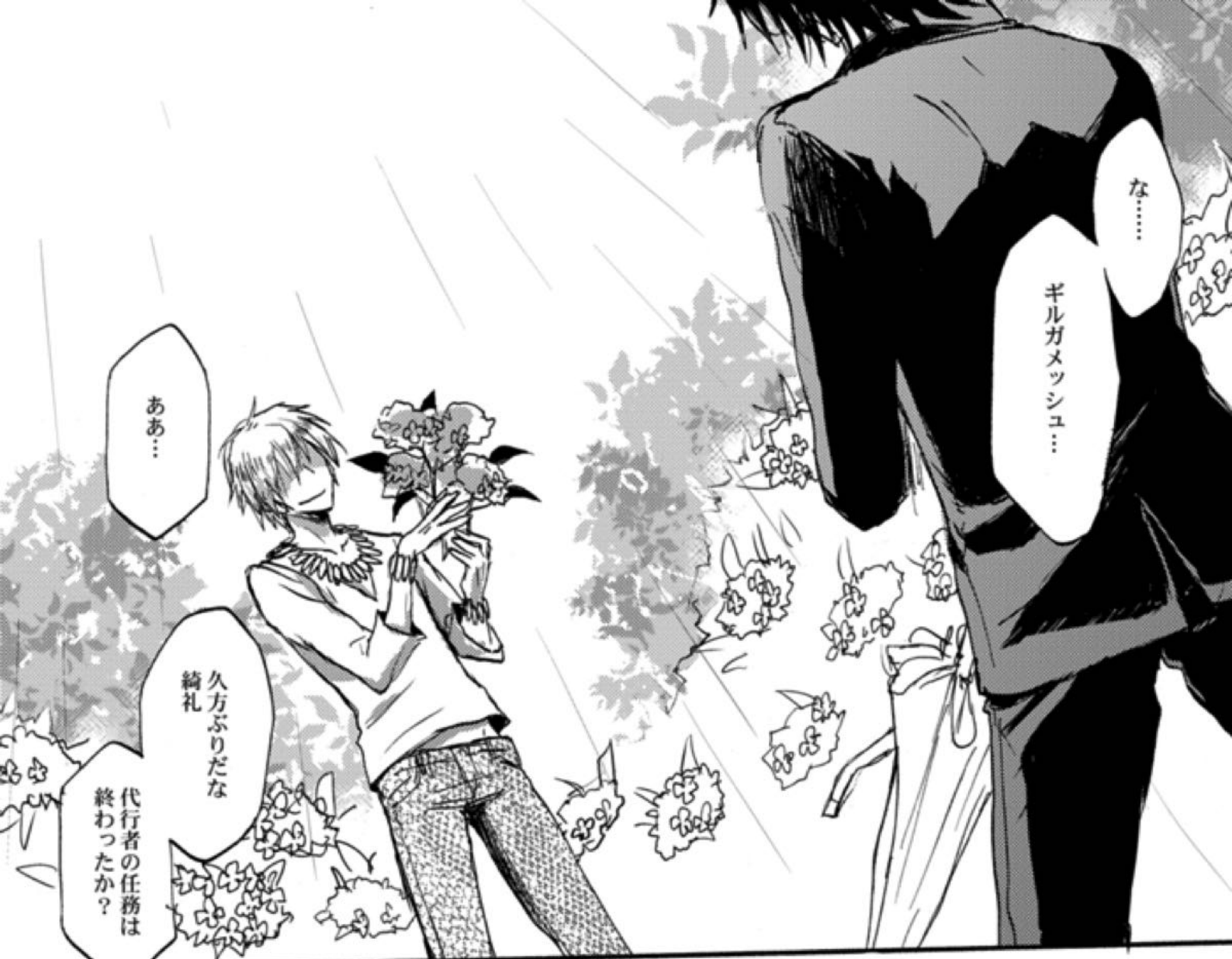
言峰綺礼×キルガメッシュ R18





「 きれい ————— 」





な……

ギルガメッシュ……

ああ……

久方ぶりだな
綺礼

代行者の任務は
終わったか？



ふむ

おかしな
顔だぞ綺礼

どうかしたのか？



バカな……今、一瞬
この男が………に
何故……

何をしている
ギルガメッシュ……

見ての
通りだ……

花を愛でている！
美しいムラサキ
だろう？



あれほど
教会の庭に
花なぞ育てておいて…

シンブサマとやらを
演じるのも
骨が折れるな、綺礼



ああ…
貴様は美しいという
感性が破綻して
いるのであったな！



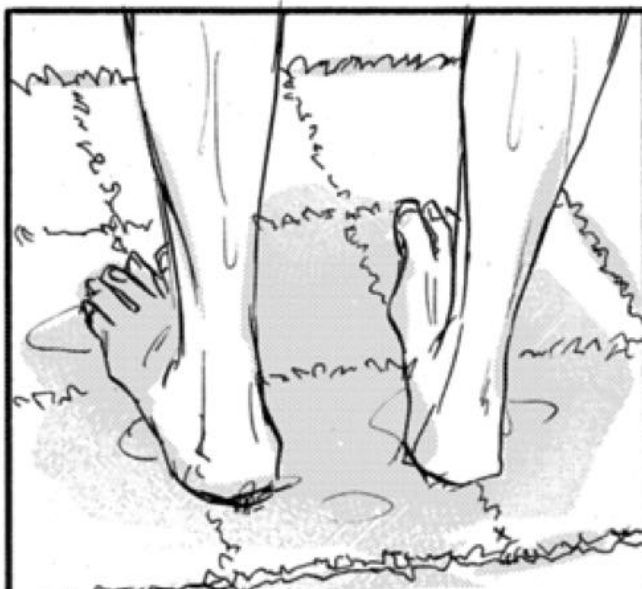
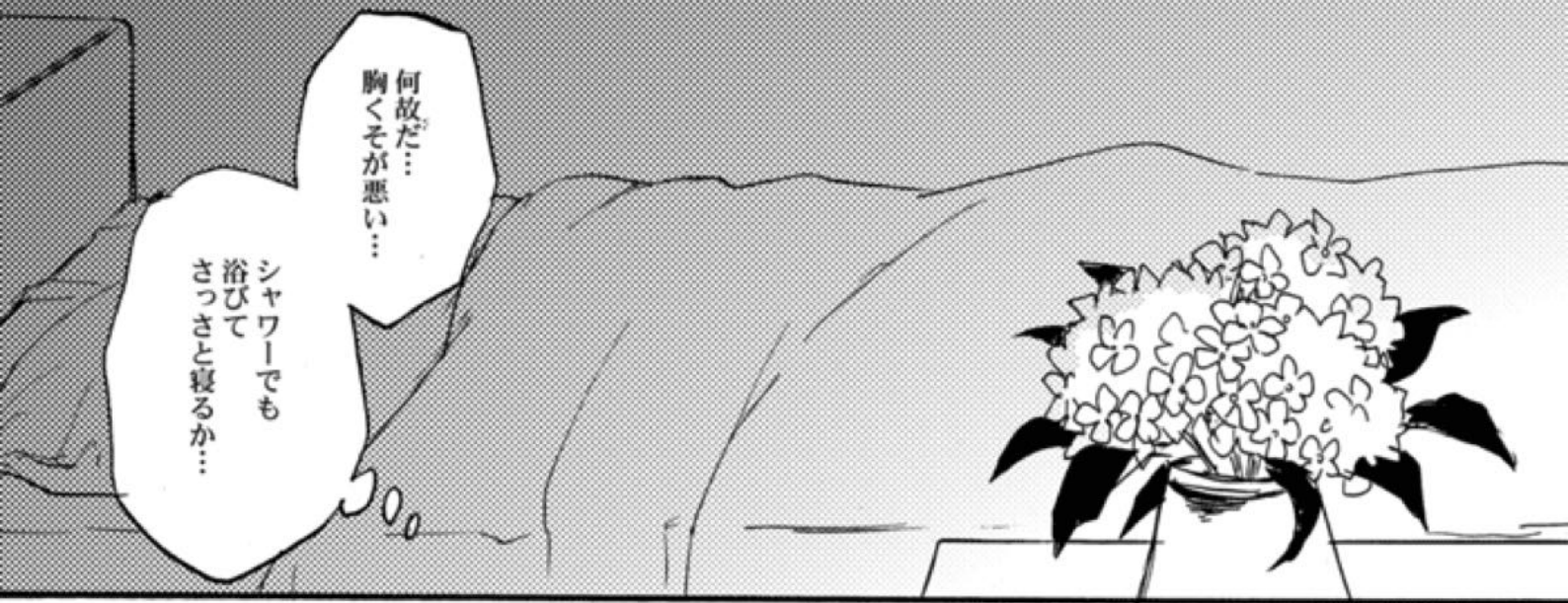
…ふん

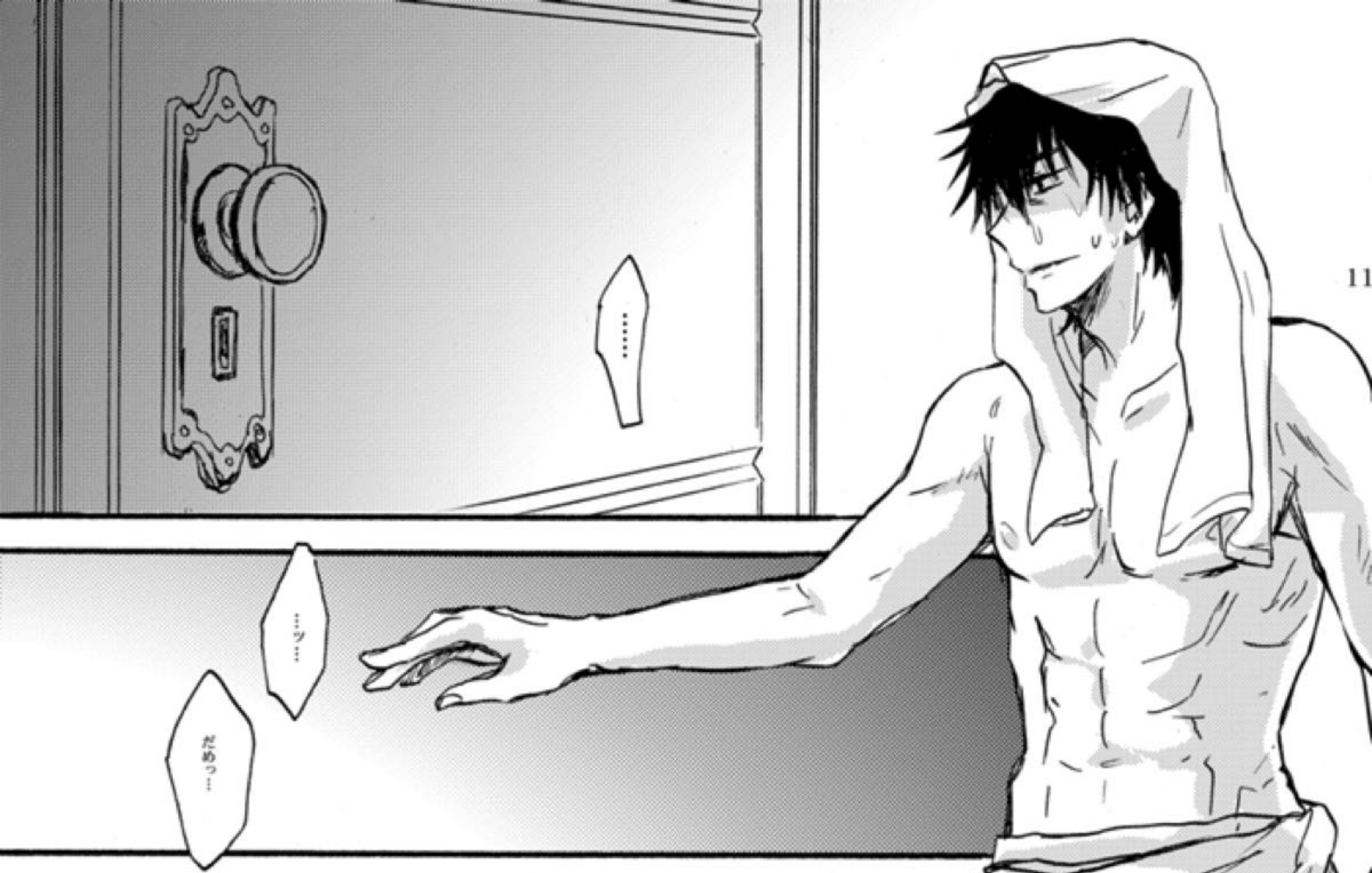
それは
寝室に
活けておけ



枯らすなよ？

…





だめっ…



やめろと
あれほど……

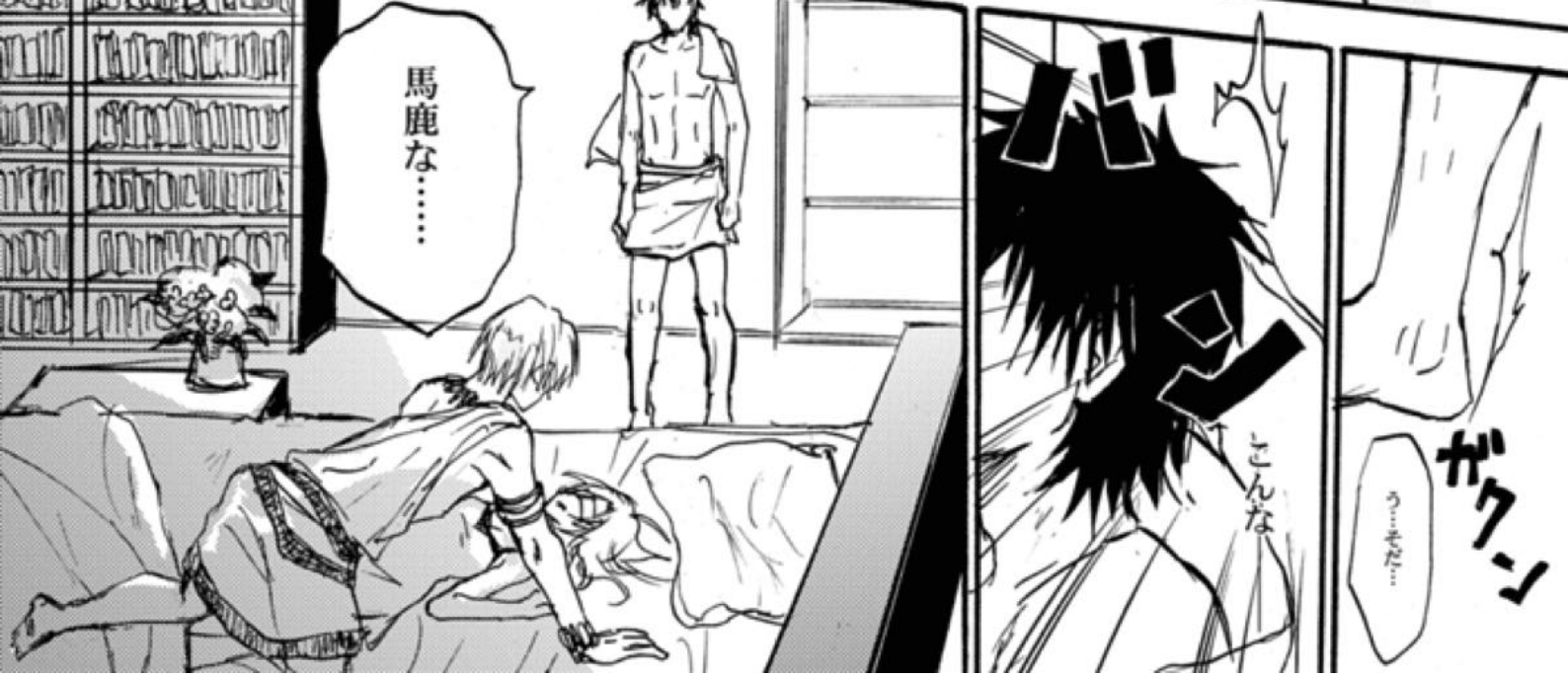
ギルガメッシュ…
私の寝室に
女を連れ込むのは



……？
——この声…まさか

いや…
馬鹿な…

ギルガメッシュ



そんなワケ——

あり
えない

夢なのか…!?

幻覚か…!?

ビュッ

!!

ギキ

どういうことだ
ギルガメッシュ…!

ギルガメッシュ

説明しろ…!!!

有り得ない

気分が悪い

ほう…
物分かりが
よいではないか
綺礼

この女は
既に死者だ

幻覚のようなものと
取ってもらって
構わん
中身は偽物なのでな!

ギッ

……しかし
観面だな

いやあ…

綺礼…
助けて…!

よもや
貴様がそこまで
動揺するとは…

期待以上の
反応だ!



綺礼……!

たすけて……

やっ……

……じっ

ハラワタが
煮えたぎる
ような

いや……

きれい……!!

よく見ておれ
綺礼

この暴君は 生前

初夜権を乱用して神の怒りを買ったのだったか？

貴様の
妻が犯される
さまを



やめて……

挿れないでっ……!!



ばさ

ふん

なんだ
つまらん…

答え合わせは
簡単すぎたな…

ゴオオオ

貴様の仏頂面が
どう変化するか…
百面相を
期待していたのだが…

チッ…

悪趣味め…

なんだ綺礼
随分と無茶をするな
わざとゆるくしておいたのだが…

腕が血まみれ
ではないか!

治癒魔術を
使え…許す

妻の濡れ場を
見せつけられるのは
そんなに嫌だったか?

ちや

それとも
嫌がる妻を見るのは
愉しかったのか?

ひどく
興奮している
ようだな—綺礼?



少しは己の愉悦が垣間見れたか？
——愛したはずの妻をどうしたい？

——どうされたい？
貴様は何を望む？



綺礼

こんなに硬くして…
悪趣味はどちらだ？

愛する者の苦しむ姿が見たかったのでは
ないか——？

どうしたら
貴様は
より
興奮する？

問男に抱かれ
絶頂する
あの女の顔を
見たくはないか？

それとも——
誰とも知れぬ
男どもに輪姦され
絶叫し——絶望に
打ちひしがれる
女の顔か？



ああ…
逆でもよいな…

こんなのはどうだ？
貴様の信ずる神と
妻を裏切り——
男色に耽るお前の姿を
あの女に見せつけるのだ

妻の前でお前が
男を抱く…

それとも

我が貴様の肛門を
犯してやっても
よいぞ？

愛する夫が
男に思うさま陵辱されて
悶絶するところを
目の当たりにした時——

あの女は
どうすると思う？

泣いて叫んで
赦しを乞うか？

制止を求めて
喚き喚いても——
貴様が妻の前で
墮ちるまで
やめはせん

綺礼よ…
想像せよ

忘れようと
努めているようだが…
本当は覚えているので
あろう？

あの女の顔も声も

……ッ

手の平に吸い付く
肌の柔らかさ—
骨と脂肪

汗の味も髪の匂いも
縋り付く腕も
そそがれた優しさも
思いやりも慈しみも—

そ…んな…っ

五感全てで
思い出せ

ついでに貴様の
本質を
解さなかった
—哀れな女の
総てを

フン…
あじさい
オルテンシア…か

ギルガメッシュ…
貴様……

ハハハ!

そう
怖い顔をするな
綺礼

—顔は
外してやる

がっん
ミッパツ

こんなのは
退屈凌ぎの
遊興だ!

単なる
性的ロールプレイだぞ?

青臭い香りだ…

貴様も
イメージプレイくらい
知っておろう?



もっと自由に
愉しめよ…
綺礼

美味しい料理に
スパイスは
必要不可欠だ！



18



がっ



っ



……なんだ？
怒ったのか
綺礼？

ト



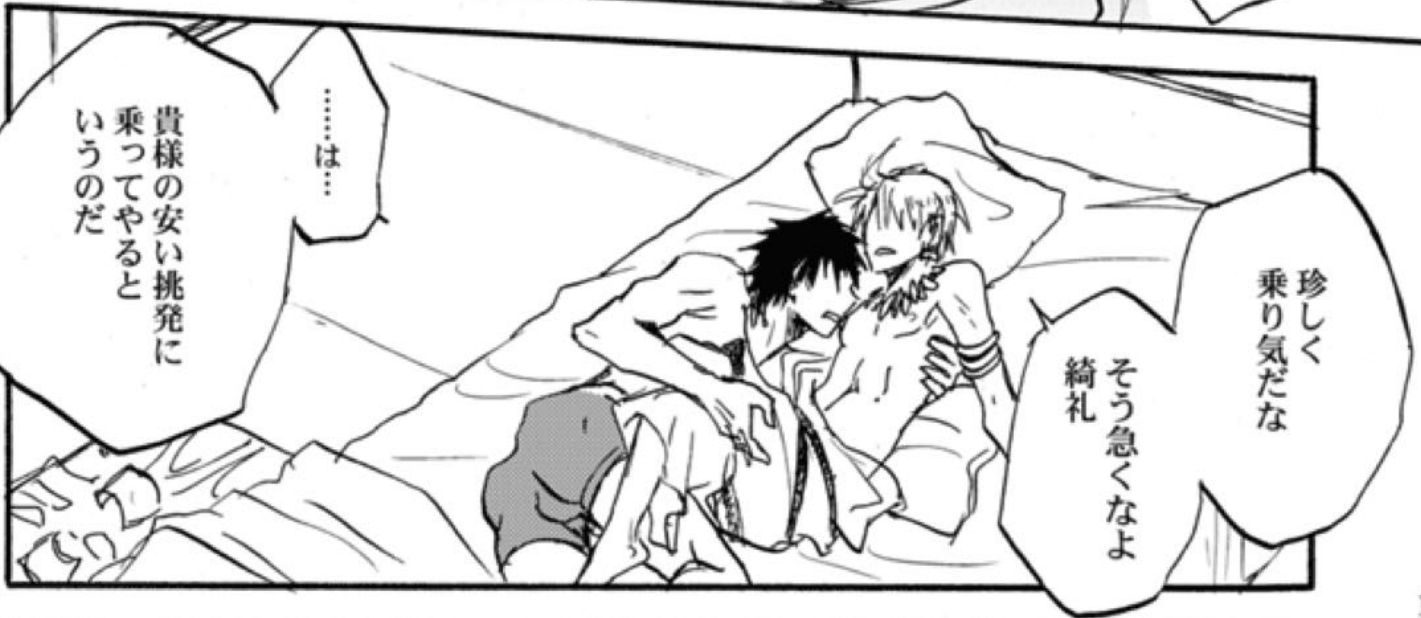
はっ



……っ



ん……ッ



貴様の安い挑発に乗ってやると
いうのだ

……は……

珍しく
乗り気だな

そう急くなよ
綺礼



お前が
泣くまで
犯してやる！

おかげで
火が付いたよ
ギルガメッシュ

ぞく……





そんなに
痛くされたいのか？

はあッ……ソッ……



ぐに

お前の振り切れた
両極端も
大したものだ……

っ……はあ……



ぐ



ぎゅ

ギョッ
ギョッ



無理矢理
ねじ込まれて
嬉しいか!?

英雄王!

ぐんぐん

っ!!!



が、

みち

はっ……

く……
るし……



お前はどうかんだ
ギルガメツシュ...

ばんっ
ばんっ
ばんっ

私にばかり
想像しろと言うが...



奥まで
届...ッ

前立腺...
こすれて...

あっ...
うああっ

腹側をナカ
突くと直腸が締まるな

そんなに
イイか?

はア
はア
はア



殺されるかも
しれんな...

あ...あ...



お前こそ...
見せつけない
のではないのか?

私のものを
銜え込んでよがり狂う
はしたなく淫らな
この身体を.....

なっ...たを.....

ガク
ガク
ガク



想像しろ
ギルガメツシュ...
このまくわいを
あの男に見せつける
のだ

お前の^{とも}朋友
に
エンキドウに

はア
はア
はア



返答次第では
貴様とて
殺す

っっ



冗談が過ぎたか？

エルキドゥとは
そういった関係
ではない

それなら
なおさらだろう？



一言でも
間違ったら

私の人生は
終わりだな...
戦上死の想定は
したことがなかった

ガッ



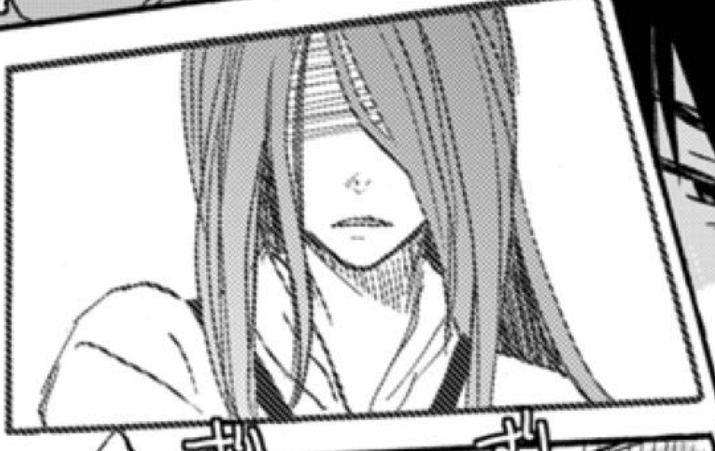
いつになく
昂ぶっている
ではないか
ギルガメッシュ...

すごい
締め付けだ

.....
ン

つ..... 憤め
雑種ッ

ナカが
うねる
肌が
赤い...
ウウッ



言うように
なったではないか
綺礼

ああ...
我が雑種に犯されて
いるところを
見られている...

アッ
アッ
ウアッ

すくすく
すくすく

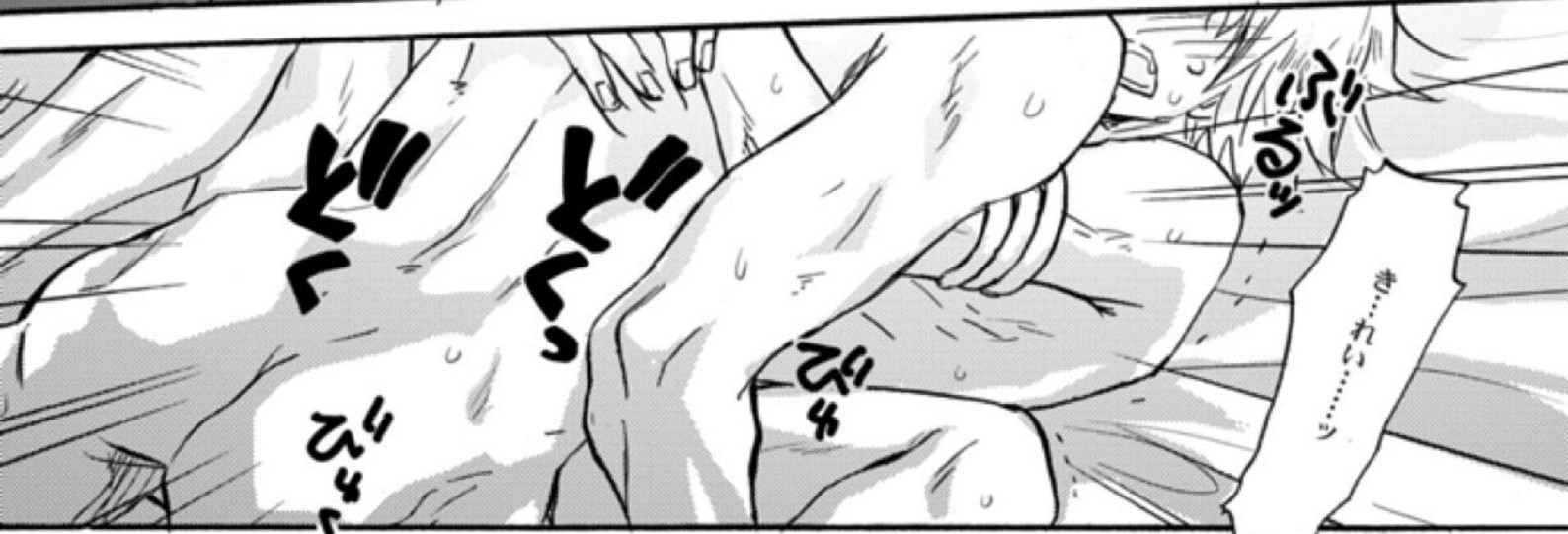
ぐんぐん
ぐんぐん

びくっ



エルキドゥ

エルキドゥ...



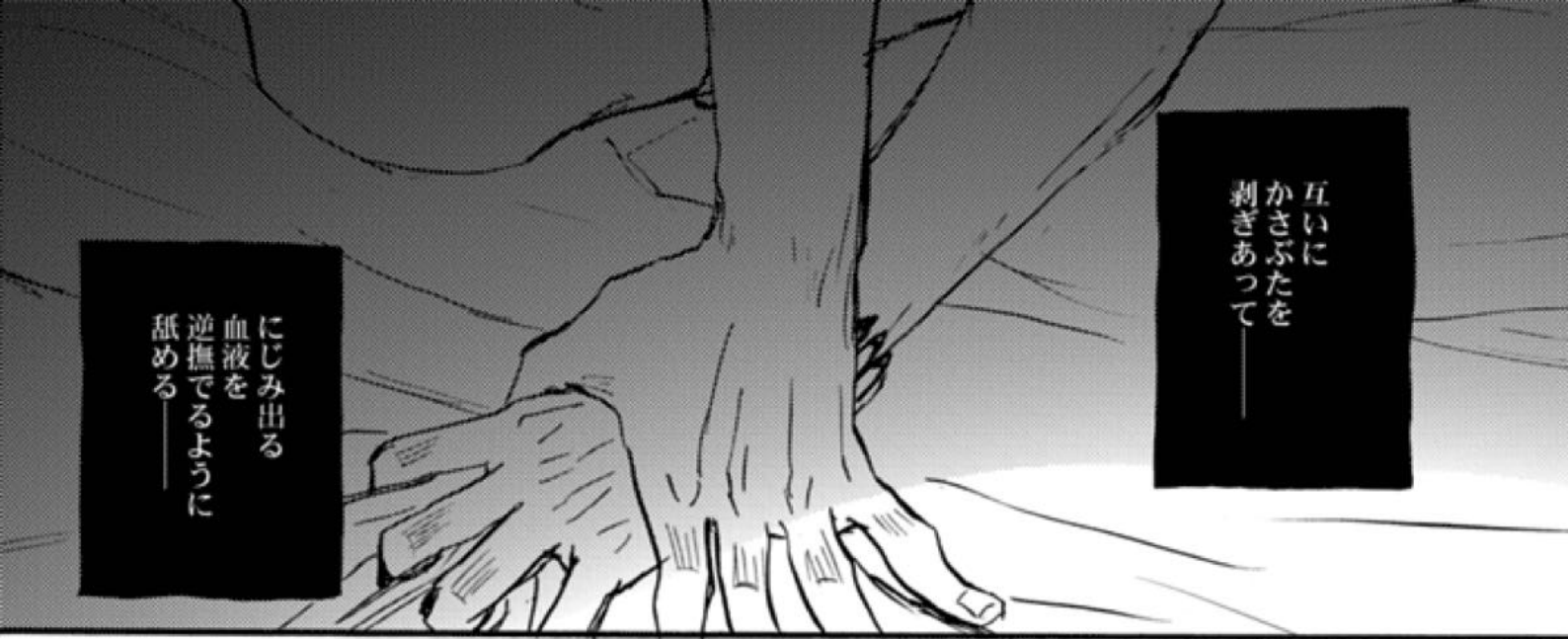
あ...から...びしょ



びしょ

綺礼に
ぞんざいに
扱われて

興奮する



互いに
かさぶたを
剥ぎあつて

にじみ出る
血液を
逆撫でるように
舐める――

なんて
愚かで

たわけた
遊興――



ははは
君は本当に

……だよわ

